

みえDOYU

2010年度 テーマ
次の時代に向けた変化の一步を踏み出そう!

~新しいこと始めてますか?~

VOL 313 2010.12.1

広報責任者 水谷彰宏

〒510-0066

四日市市南浜田町 2-14

水谷ビル3F

TEL 059(351)3310

FAX 059(351)9362

<http://www.mie.doyu.jp/> E-mail mie-doyu@eos.ocn.ne.jp

次の時代に向けて中小企業の役割を再認識

~第18回経営研究集会に192名が参加~

11月12日(金)に三重県中小企業家同友会の第18回目となる経営研究集会が、ロワジールホテル四日市で開催されました。

今回の経営研究集会は「次の時代に向けた変化の一步を踏み出そう~新しいこと始めてますか~」という活動テーマに沿って、3つの分科会では既存の事業から視点を変え新たな事業を立ち上げて活動している3人の経営者からその経営体験を報告いただきました。

第1分科会ではこれから成長が見込まれる海外の新市場へ進出している加藤氏からの報告、第2分科会では着眼点を変えマーケティング視点から新商品開発を行なっている近藤氏からの報告、第3分科会では顧客の要望を集約して業容拡大を行なっている西尾氏からの報告があり、その後のバズセッションでは自社の今後の展開や戦略について熱い討論を行ないました。

また、記念講演では『葉っぱビジネス』を立ち上げた(株)いんどり 横石社長に講演いただきました。既存の概念からの転換、地域にある資源の見直しと活用といった新たな事業を生み出す上で必要な事から、活躍できる舞台づくり、諦めない信念といった経営者としてのあり方を赤裸々に語っていただきました。(株)いんどりの事業を通じて変わった町やそこに住む人々の姿は、地域に根ざして活動を行なっている我々中小企業にとって非

常に勇気付けられる内容でした。

その後の懇親会でも分科会・記念講演の熱気が参加者に伝播したかのような盛り上がりで大変盛会のうちに幕を閉じました。また当日は行政・地元金融機関をはじめオブザーバーの方にも多数ご参加をいただきありがとうございました。



第18回経営研究集会ご来賓名簿

三重県農水商工部理事	林 敏一
三重県健康福祉部こども局局长	太田栄子
(財)三重県産業支援センター理事長	
	福井信行
(財)三重県農林水産支援センター理事長	
	中西正明
日本政策金融公庫津支店支店長	栗原雅晴
(株)百五銀行常務取締役	千原一典
(株)三重銀行頭取	種橋潤治
桑名信用金庫理事長	中澤康哉
北伊勢上野信用金庫理事長	柴田 寛
三重県信用農業協同連合会営業部長	
	田中茂行

(順不同・敬称略)

第18回経営研究集会だより

第18回経営研究集会

テーマ

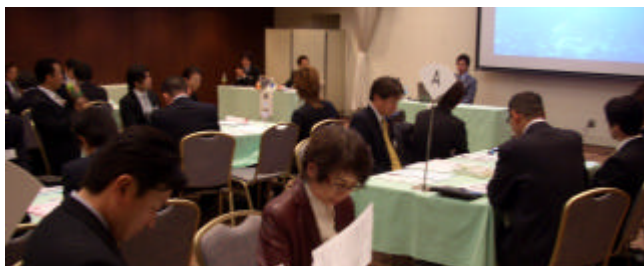
『企業の明日に向けていざ実践！』

～変化の1歩は経営者から～

ベトナムでの事業展開に対する加藤社長の熱い想いがひしひしと伝わる講演でした。

私がこの分科会に参加した当初の目的は、自身の会社が身を置いている製造業を中心とした企業の海外進出、移転が進むなか、中小企業の事例を聞いてみたいということでした。日本国内の製造業はモノづくりの全部または一部でも海外に移すべきであるという趣旨の話もあり大変参考になりました。さらに勉強になったのは、新事業に取り組むにあたっての考え方でした。特に印象に残ったのは「素直さ」と「連携」という言葉です。良いと思ったものを素直に受け入れ、新事業に繋げていくこと。自身の力で成し得ないことがあれば他者と連携して補うことは、他人の話について疑いを持ったり、他人に頼ることを無意味に嫌がる自分にとって貴重な学びになりました。

また、バズセッションでは「自社にとっての新しい市場をどこに見出しどう切り拓くか」というテーマで話し合いました。参加メンバーの皆様が、厳しい経営環境のなか、それぞれに自社の既存事業を踏まえて新しい事業展開を模索し実行されていることをお聞きすることができました。また、話し合いのなかでは、「後継の経営者は、既に築かれた事業があるために、なかなか新事業に踏み出せない」といった意見もあり、2代目である自分としても弱い所を痛感させられたとともに、創業の経営者の思い切りの良さをもっと見習わなければならないと感じました。



(第1分科会)



(記念講演)

分科会で海外への事業展開に取り組む加藤社長の講演の後、記念講演では対照的に、国内の過疎といわれ

る地域を舞台に事業展開する横石社長の講演を興味深くお聴きしました。

講演を通して感じたことは、どこで事業展開するにしても、自分が商売をするその場所で、そこにある経営資源を最大限に活かすことが大切だということです。特に、「人」という経営資源においては、横石社長が高齢者という「人財」を活用するなかで得られた多くのキーワードがありました。見方を変えればマイナス思考はプラス思考に変わる。人に「出番」と「居場所」と「仕事」をつくる。気づいたことは「検証」し、なるほどと納得してから実行する。他人を喜ばせることで自分が幸せになれる。活躍できる舞台があると人は生き生きする。これらは高齢者に限らず、人のやる気を目覚めさせるために重要なことだと感じました。一方で、私の会社にも高齢の従業員が多いなかで、同様に彼らのやる気を引き出すことができているのかという思いも抱きました。おそらく、ご自身の体験談からも強烈に伝わってきた、葉っぱビジネスに対する横石社長の本気の取り組み姿勢や信念こそが、そこで



(第2分科会)

働く人の気持ちや行動を変えていく原動力であり、私の抱く不安は私自身の経験と信念のなさによるものだろうと痛感するとともに、経営に対する自分の本気度を改めて問い直す機会になりました。

(株)前田テクニカ 前田昌彦

第18回経営研究集会を終えて

第18回経営研究集会実行委員長
市田淳一

約1年半前、共に訪れたハノイ市内を移動中のバスの中で、「ベトナムとはどういう国なのか？何が足りていないのか？」等々、矢継ぎ早に現地ガイドに質問を投げかけていた加藤社長。その初訪越から4ヵ月後には現地合弁会社を設立。その後も国内外問わず精力的に新たな事業展開を進めておられます。

第1分科会では、そんな加藤社長にベトナムという国の魅力・可能性について語っていただきました（経済成長率、若年人口の多さ、人件費の安さ、手先が器用で勤勉な国民性、親日である等）。弊社でも既にベトナム人実習生を受入れており、今後ますますビジネスパートナーとして期待の高まる国であります！

また、加藤社長の報告の中で気付いたことは、創業当初のリフォーム請負から始まり、現在の海外進出支援事業に至るまで、一貫して目の前にある「足りないモノ・サービス」をお客様の為に提供し続けているということ。「Think global, Act local」これこそグローバル経営の実践例ではないでしょうか？

さらに横石社長の記念講演では、限界集落・上勝町で閉鎖的なネガティブ思考のループにはまっていた上勝町の高齢者に「出番」を与えて人財とし、山間部の特性を活かした「葉っぱビジネス」を築きあげてきたエピソードを拝聴し、どんな状況・環境にあらうとも経営者の前向きな発想と行動力で新たなビジネスモデルを構築できるのだということを学ばせていただきました。

閉塞感漂う情報が飛び交う今日この頃、大きな視野での前向きな「次の時代に向けた新しい一歩」を喚起させられた経営研究集会でした。

中央精密（株） 加藤浩司



（第3分科会）

さる11月12日に開催されました第18回経営研究集会には、各支部より多数のご参加をいただき、誠にありがとうございました。報告・講演をいただきました経営者の皆様、実行委員の皆様はもちろん、担当北勢支部の皆様方のお声掛けや当日のご尽力により、今年も“熱い研究集会”となりましたことに厚く御礼申し上げます。

本気に応える緊張感

同友会は「いい経営者になろう！いい会社にしよう！」と本気で真面目に学び取り組む経営者が多く集まる会ですから、魂の入っていない企画や運営はすぐ見透かされてしまいます。それだけに今年の同友会テーマ「次の時代に向けた変化の一步を踏み出そう！」の集大成となる研究集会として会員の皆様の感性を刺激する集会、そして例年継がれてきた全支部一体となって盛り上げ仲間作りの大チャンスとするDNAを絶やすことがないよう、プレッシャーというよりは緊張感を持って臨むことができました。

言い訳しない経営

分科会・講演会ともに、新たな一步を踏み出し成果を出されている経営者をお招きし、どれだけでも言い訳できる経営環境でも必ず突破口はあるものだと、改めて気付かされるお話をいただきました。

特に（株）いのだりの横石社長には、一步踏み出す勇気と人や商品を輝かせるヒントをいただいたとの声を多くの会員の皆様から頂戴できたことを大変嬉しく思います。

社員は学びたがっている

今回弊社の社員も数名講演会に参加させていただきましたが、想像以上にはるかにスポンジのごとく多くのことを吸収したことに驚くとともに、恥ずかしながらこのような機会を持つことに飢えていることがよく分かりました。ある女性社員は、「講演会中ずっと寝て

（4面に続く）

事務局だより

いる社長さんが何名もいて、もったいないと思った。」と感想を述べ、希少な機会への新鮮な視点を感じさせました。社員教育委員会も長くやらせていただきましたが、何かを学ばせようと意図した教育よりも、このような機会を設けることが企業内での“共通語”を増やし感性のレベルアップに資することがあります。同友会の使われ方の一つとして、時に社員（人財）育成の場としての例会などの在り方も今後検討されることが望まれます。

反省また反省

とはいえ、自身の時間コントロールの拙さから、分科会の報告者の皆様と打ち合わせる時間がとれなかったり、細部でうっかり病が発症したりして反省点も多く、皆様には何かと準備不備のお詫びを申し上げますとともに、貴重な体験として今後活かしてまいりたいと思います。

本当に多くのことを学ばしていただきましたことに心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

事務局のメールアドレスが変更になります。お手数ですが登録の変更をよろしく申し上げます。

旧アドレス

mie-doyu@cty-net.ne.jp

新アドレス

mie-doyu@eos.ocn.ne.jp

旧アドレスは来年1月末までは受信のみ可能です。



〈同友コラム〉

就職問題と食糧自給率向上の取り組みに対する私見

三重県中小企業家同友会 成川総一

新卒者の就職はリーマンショック以降売り手と買い手が逆転し、バブル崩壊以後最低の内定率を記録しています。就職先が決まらないまま卒業を迎える学生も多く、意図的に留年をする学生などもいます。今では様々な就職支援対策が設けられており、企業や受講者に助成金が出されています。

この件に関して私は、受け入れる企業に対しての助成は理解できませんが、受講者にまで助成金が支給されるのは如何なものかと思っっています。社会は決して働いてもらう場ではなく、人それぞれが生きていく中で社会と関わり成長する、また生活を営んでいくための糧を得るために自主的に就労するのです。厳しい状況であることは理解できますが、就業前に過度の補助をすることは、就業後を考えたら場合マイナス効果にしかなりません。学校教育においても学ぶことに対して学費を支払い、社会においても労働の対価として給料を頂くという流れに相反する制度となっています。

一方日本の食料自給率の低下が大きな問題として取り上げられています。農家の後継者不足や耕作放棄地の増加、最近ではTPPやFTAといった貿易の自由化による農業衰退懸念がクローズアップされています。

地産地消という言葉が使われ始めて何年かが経ちました。しかし消費者の日常的な購入実態は地産地消には中々結びついていません。食育制度や循環型地域社会の構築など取り組むべき課題は山積みであります。

この2つの問題を解決するために、かつての屯田兵制度を復活させてはどうかと最近考えています。就職できなかった新卒者を一定期間、地域の耕作放棄地の開墾に従事させ、その対価として就職に向けた助成制度を活用できるようにする。そこから農業を志す人材につながるかもしれませんし、少なからず農業に触れることで食への啓蒙も図れると思います。

個人的な偏った考えではありますが、日本は今後を考えたい時、この2つの問題は軽視できない重要な課題であると考えています。

各支部例会のご案内

桑名支部 1 月例会

テーマ『若き 3 代目経営者が語る』

日 時 平成 23 年 1 月 18 日 (火)
18:45 ~ 21:00

会 場 ぎんごんちゃん桑名店

講 師 牧野利之氏
(有)利加エンタープライズ
代表取締役

北勢支部 1 2 月例会

テーマ『素晴らしい仲間と来年を語ろう』
~ 夢を語ろう忘年会!! ~

日 時 平成 22 年 12 月 10 日 (金)
18:30 ~ 20:30

会 場 ロワジールホテル四日市

参加費 5,000 円

当日、18:10 より臨時支部総会を
開催します。

中勢支部 1 月例会

テーマ『 仏教からみた海図なき日本と
少子高齢化 その光と闇 』(仮)

日 時 平成 23 年 1 月 26 日 (水)
18:45 ~ 21:00

会 場 アスト津

講 師 梅林久高氏
高田中学校高等学校 教頭
真宗高田派正念寺住職 輔講
高田派教学院第四部会 研究員

伊賀支部 1 2 月例会

テーマ『未定』

決まり次第ご連絡いたします。



南勢支部 1 2 月例会

テーマ『当社の理念とこれからの展開』

日 時 平成 22 年 12 月 14 日 (火)
19:00 ~ 21:00

会 場 いせトピア 研修室 2

講 師 安藤大作氏 安藤塾 (株)
代表取締役社長

尾鷲・熊野グループ 1 2 月例会

今月のグループ会はありません。



第8回理事会まとめ

1、各種報告事項

中同協第2回幹事会の報告（略）

韓国農業流通視察の報告（略）

第18回経営研究集会の報告

懇親会については当日欠席者が多く見受けられた。事前入金者との平等性を保つため当日欠席者には懇親会参加費の請求書を送ることを申し合わせました。

またこの件については実行委員会で反省として申し送り事項とすると共に、今後の対応策については、総務委員会で検討していくこととしました。

経営指針作成セミナーの報告（略）

第2回西日野にし学園見学懇談会の報告（略）

人を生かす全国交流会について、参加者から以下の内容が報告されました。

・自社の強みをまず経営者自身が把握することが必要であり、企業連携を進めていく上でもお互いに強みを理解しているもの同士が取り組んでこそ成果が得られる。

・求人においても穴埋め的な（戦術）採用ではなく、企業の10～20年後の形を考え、計画的な（戦略）採用を図ることが大切である。

・採用計画をはじめ人財育成などにおいても企業のあるべき姿を示す経営理念と具体的な根拠を示す方針や計画が必要になってくる。改めて経営指針作りの必要性和PDCAの実践サイクルの中で展開していくことが重要である。

・その中で労使見解に基づく思想を十分に理解し実践していくこと、また実践活動を通じて思想を語る語り部を増やしていくことが課題である。

2、正副代表理事会議の報告

正副代表理事会議の報告（略）また報告を受けて次年度の活動テーマ・方針について次回理事会で具体的な意見交換を行なうこととしました。

また今回、秋の叙勲で受章された矢野・長嶋両氏と、県産業功労賞を受賞された宮崎氏の祝賀会を正副代表理事が世話人となって開催することを申し合わせました。

3、各委員会の報告と提案

総務委員会

- ・10月度月次決算報告（略）
- ・第29回定時総会については、以下の通り承認されました。

開催日時 平成23年4月22日（金）
13：30～

開催場所 希望荘

主管支部 桑名支部

今回の総会は、基本的にこの1年間に取り組まれた「変化の1歩」の実践を交流し、これからの1年における企業の方向性や経営戦略についてじっくりと語り合うことを目的とするため、宿泊を前提として開催することとを申し合わせました。

また宿泊される方には、本会計より参加費の一部補助を行なうこととしました。

4、入退会者の承認（略）

5、前回理事会以後の活動報告（略）

6、その他

- ・県営サンアリーナ指定管理者（株）スコルチャ三重より、三重県企業対抗フットサル大会への後援依頼があり承認しました。

